

## 第4節 勉強の効用

【一生懸命勉強することは、「立身出世」する上で有用であると考えられている。しかし、その経済的な効用については多くの中学生が疑っている。社会的貢献や尊敬の獲得にとっても、勉強することは役に立つと信じられている。】(図2-8)

Q12

一生けんめい勉強することは、次のことにどれくらい役立つと思いますか。1)～8)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

ここでは、一生懸命勉強することの意義・有用性について尋ねた。8項目を立てて、それぞれについて5段階の評定法(「とても役立つ」～「ぜんぜん役立たない」)で回答してもらった。肯定的な回答(「とても役立つ」と「まあ役立つ」の合計)の割合の大きな順に並べてみると以下ようになる。

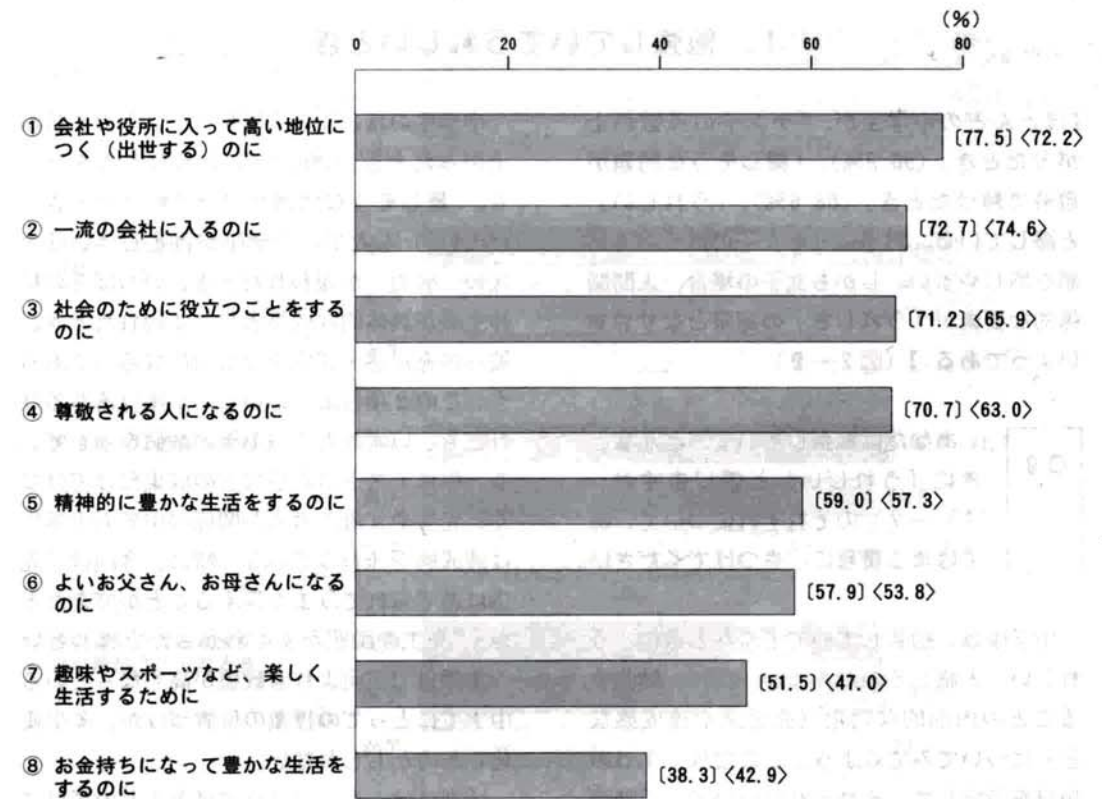
- ①「会社や役所に入って高い地位につく(出世する)のに」(77.5%)
- ②「一流の会社に入るのに」(72.7%)
- ③「社会のために役立つことをするのに」(71.2%)

- ④「尊敬される人になるのに」(70.7%)
- ⑤「精神的に豊かな生活をするのに」(59.0%)
- ⑥「よいお父さん、お母さんになるのに」(57.9%)
- ⑦「趣味やスポーツなど、楽しく生活するために」(51.5%)
- ⑧「お金持ちになって豊かな生活をするのに」(38.3%)

最大の特徴は、「立身出世」にとって勉強は役立つと考えられている点である。勉強することが経済的な豊かさを必ずしももたらさないことは見通しつつ、今の社会では勉強しなければ一定の地位にはつけないと認識している。しかも、社会的な地位だけではなく、社会的な貢献や尊敬の獲得にとっても重要であると考えているのである。それが「精神的な豊かさ」を約束するものではないにしても「立身出世」への有効なパスポートを得ることができると多くの中学生が感じている。

前回に比べて、「一流の会社に入るのに」や「お金持ちになって豊かな生活をするのに」という項目を除いて、勉強の効用を認める中学生がいくらか増えている。

図2-8 勉強の効用



注1) ( ) 内の数値は「とても役立つ」と「まあ役立つ」の合計。

注2) < > 内の数値は第1回の結果。

注3) サンプル数は2755人。